

# 日本科学史学会 第67回年会 2020年度総会プログラム

2020年5月30日(土)

08:30 受付開始

09:00-10:35 一般講演 (A会場、B会場、C会場、D会場)

10:45-11:55 一般講演 (A会場、B会場、C会場、D会場)

12:40-13:50 一般講演 (A会場、B会場、C会場、D会場)

14:00-16:30 シンポジウム (A会場、B会場、C会場)

16:40-18:00 総会  
(懇親会)

2020年5月31日(日)

08:30 受付開始

09:00-10:10 一般講演 (A会場、B会場、C会場、D会場)

10:20-11:30 一般講演 (A会場、B会場、C会場、D会場)

11:40-12:50 一般講演 (A会場、B会場、C会場、D会場)

13:40-16:10 シンポジウム (A会場、B会場、C会場)

16:20-18:50 シンポジウム (A会場、B会場、C会場)

2020年5月30日(土) 一般講演 9:00-10:35 (AB会場は9:20開始)

A会場

A11 聖母マリアの聖性と美の伝播——『雅歌』の花嫁神秘主義と科学思想 仲間 絢

A12 19世紀の科学普及活動家レイ・フィギエと魂の不滅性をめぐる問題 榎野佳奈子

A13 ハンス・ハインツ・エーヴェルス『蟻』について——科学入門書と幻想文学の狭間 相馬尚之

B会場

B11 幕末期における蒸気船運転と蒸気機関——加賀藩の発機丸を事例に 坂本卓也

B12 試薬における大阪工業試験所が果たした役割 本庄孝子

B13 航空機開発における社会的制約としての認証プロセス 山崎文徳

C会場

C11 生徒筆記にみる明治20年代の後藤牧太の簡易物理実験の普及 興治文子、小林昭三

C12 授業筆記や学会誌等で読み解く150年を迎えた科学教育の史的真相と教訓 小林昭三、興治文子

C13 明治期 群馬県師範学校の物理教師群像 玉置豊美、所澤 潤、高橋 浩、赤羽 明

C14 大正新教育改革における理科児童実験——群馬県を中心に 赤羽 明、所澤 潤、玉置豊美、高橋 浩

D会場

D11 9:00-9:40 メンデル主義における模範的科学としての化学——ペイトソンとヨハンゼンを中心に 中尾 暁

D12 9:50-10:30 計算キと科学技術計算——超高層ビル建築と数値気象予報の比較を中心に 前山和喜

2020年5月30日(土) 一般講演 10:45-11:55

A会場

A21 インド算術における平方と平方根のアルゴリズム——『トリシャティーバーシュヤ』10, 12-13 徳武太郎

A22 ヴィエト『幾何学への補充』における比・比例の扱い 北 秀和

A23 コペルニクスにおける「対円技法」の起源 高橋憲一

B会場

B21 旧海軍による航空機用無線通信機の初期開発過程 横井謙斗

B22 通信省工務局と電気通信技術研究開発体制の形成 河西棟馬

B23 第二次世界大戦期日本の勢力圏内での電離層観測——戦後占領軍資料を用いた考察 水沢光

C会場

C21 近代日本における結核の発病予防と「体質」論 塩野麻子

C22 「国民生活科学化協会」の戦後 北林雅洋

C23 音響学者・色彩学者 田口柳三郎の教育メディア観 吉岡有文

D会場

D21 和算書『拾璣算法』の著者同定と出版状況に関する検討 武正泰史

D22 18世紀末の寛政改暦事業初期における幕府と土御門家 嘉数次人

D23 長野県の天文史料に見る天文遊歴家朝野北水の足跡と講義内容 陶山 徹

2020年5月30日(土) 一般講演 12:40-13:50

A会場

A31 ガリレオにおける重さの概念 伊藤和行

A32 等速落下法則におけるガリレオとニュートン 都築正信

A33 「無視可能なもの」の探求——ガリレオを読むシモーヌ・ヴェイユ 鶴田想人

B会場

B31 日本における自動制御研究の戦時から戦後への橋渡し——高橋安人の研究を中心に 田中克範

B32 日本のテレビジョン放送導入と米国の日本防衛予算計画 奥田謙造

B33 日本における超高压電子顕微鏡の揺籃期 黒田光太郎

C会場

C31 ハイム・ガルベル(1903~1937)の技術論——消された、もうひとつのマルクス主義技術論 市川 浩

C32 三木清と唯物論研究会 初山高仁

D会場

D31 伊藤東涯の写本「無人嶋圖記」について 杉本 剛

D32 久米邦武論文「島人根性」についての考察 福川知子

D33 明治初期の気象観測：『伊藤圭介日記』の記述から 財部香枝

2020年5月30日（土）シンポジウム 14:00-16:30

A会場 「新たなニュートン像」を越えて 多久和理実他

B会場 大会校企画シンポジウム 統治の科学史・技術史へ：安全・監視・自由 木原英逸他

C会場 他学会等連携企画委員会・科学史教育用語 WG 企画シンポジウム 今日の科学史リテラシーとは——ヒストリオグラフィーと教授戦略 山田俊弘他

2020年5月31日（日）一般講演 9:00-10:10（D会場のみ9:45～）

A会場

A41 アリストテレスと古代ギリシアの医学者たち——ヒトの生殖発生をめぐる論争史の一局面  
今井正浩

A42 イブシ・スィーナーの精気(ルーフ、プネウマ)理論の継承——クトゥブブディーン・シーラーズィーの注釈書から見えるもの 俵 章浩

A43 フランシス・ベイコンの学問改革プログラムにおける食の位置づけ 柴田和宏

B会場

B41 1900年代における長岡半太郎の数理物理学研究の再考に向けて 菱木風花

B42 ド・ブロイに師事した日本人物理学者 小島智恵子

B43 湯川秀樹の京都帝国大学卒業論文関連史料の分析と考察 小長谷大介

C会場

C41 日清戦争後の遼東半島における日本による地質学的・鉱山学的調査について 加藤茂生

C42 第2次世界大戦直後の日本の地質学 矢島道子

C43 中国地方鉄系鉱山(若松鉱山と柵原鉱山) 歴史と技術、産業遺産の保存課題 山田大隆

D会場 9:45-10:10

D41 19世紀の西欧における engineer と scientist の相互的構成：伝統的の大学と新興の工科大学の学位授与競争における非決定論的説明 入江信一郎

2020年5月31日（日）一般講演 10:20-11:30

A会場

A51 藤沢氏第一表作成の謎 鈴木真治

A52 森鷗外の統計観の源泉：Friedrich Martius の医学統計論 中澤 聡

A53 陸軍士官学校編纂の『公算学』と『代数学』について 上藤一郎

B会場

B51 朝鮮の物理学者・都相禄の研究活動について——小谷正雄との関係を中心に 任 正赫

B52 前橋医学専門学校の前橋化学教授武藤義夫による分子間力理論研究 高橋 浩

B53 理化学研究所における玉木英彦によるウラン臨界量計算 1943 年（その 2） 山崎正勝

C 会場

C51 戦争終結を遅らせた台風——「藤原の効果」の発見 山本 哲

C52 国立天文台水沢のコンピュータ史——算盤からスパコンまで 馬場幸栄

C53 天文学研究において研究者自主的組織が果たした役割 千葉庫三

D 会場

D51 1946 年以前における学術研究費補助からみた斎藤報恩会 米澤晋彦

D52 日本に対する科学研究支援をめぐる米国内の議論 栗原岳史

D53 日本の学術体制史研究——資料整備とその歴史研究 その 3 高岩義信

2020 年 5 月 31 日（日）一般講演 11:40-12:50

A 会場

A61 鼻口のみを覆うもの——マスクの歴史にむけて 住田朋久

A62 人工妊娠中絶技術の歴史——吸引法と「日本母性保護医協会」の関わり 坂井めぐみ

A63 新生児マス・スクリーニングの導入における技術者の役割 ——A 県の衛生研究所におけるガスリー検査の導入における語り 笹谷絵里

B 会場

B61 1950 年度に生まれたある物理学史 グループについて 八木江里

B62 科学史家、後藤邦夫の物理学史研究とその研究環境 桑原雅子

C 会場

C61 1950 年代朝日新聞における原子力像 秦 皖梅

C62 1970 年代の日本における原子炉事故評価をめぐる論争 横田陽子

D 会場

D61 ジオの諸科学と地権力論——日本地学史記述の再考に向けて 山田俊弘

D62 12:10-12:50 オーギュスト・コントと科学史—ブランヴィル『一般比較生理学講義』（1829-1832）を中心に 平井正人

2020 年 5 月 31 日（日）シンポジウム 13:40-16:10

A 会場 動物の科学文化史——ヒトと動物のインターフェイスをめぐる 坂野徹他

B 会場 学術研究と『科学技術基本法』——その科学史技術史的検討 兵藤友博他

C 会場 放射線防護とは何か——ICRP 勧告の歴史と福島原発事故の教訓 藤岡毅他

2020 年 5 月 31 日（日）シンポジウム 16:20-18:50

A 会場 仮説実験授業の提唱とその研究組織——仮説実験授業研究会も仮説・実験的に発展したといえるのか？ 多久和俊明他

B 会場 安全保障技術研究推進制度を考えるフォーラム 林真理他

C 会場 戦後技術論から現代へ 直江清隆他